

伊予市シティブランド確立業務 第7回市民ワークショップ報告書

テーマ: 「ロゴマーク等報告・発表会」

- 開催日時:平成 26 年 11 月 20 日(木) 19 時～21 時
- 開催場所:伊予市中央公民館
- テーマ:ロゴマーク等報告・発表会
- 参加者:一般市民 24 人、協力職員 8 人、主催者スタッフ 7 人(未来づくり戦略室 4 人、セキ株式会社 3 人)、ファシリテーター 1 人、コピーライター 1 人、武智市長
- プログラム
 1. 開会
 2. 開会あいさつ
 3. ロゴマーク、キャッチコピー等の説明
 4. ワークショップ参加者からの報告
 5. お礼の言葉
 6. 質疑応答
 7. 閉会



報道各社への配布資料(一部)



■開会あいさつ(要約) 未来づくり戦略室 室長 坪内 圭也

今回の事業は本市が来年市制 10 周年を迎えるのを機に、市民の皆様が一体感と誇りを持って伊予市に住み、かつ伊予市を内外に積極的にアピールしていただくことを目的に、ロゴマークやキャッチコピーを作成するものです。このワークショップを通じ、あらためて本市を見直す機会にもなったと思います。胸を張って市外にPRできる素晴らしいものでも、地元の人にさえ知られていないものもあります。また市民の皆様が将来に渡って胸を張って暮らしていくために、解決しておきたい課題なども見えてきたのではないかと思います。本日の報告・発表会では、山内先生や大野先生のご指導のもとに話し合ってきた成果を、市長に報告していただく場にしたいと考えています。話し合いの中で気付いた本市の魅力や課題について、参加者の皆様で共有していただき、

今後、いろいろな場面で活用していただきたいと思います。また本日は報道機関の皆様に向けた発表の場も兼ねさせていただいております。取材にお越しくださりました報道機関の皆様におかれましては、伊予市が踏み出しますこ

の新たな一歩を広くご紹介いただき、伊予市ブランドをご支援くださいますようお願い申し上げます。



■ロゴマークの説明（要約） グラフィックデザイナー 山内 敏功先生

山内氏／皆さんといろんな意見を交わしながらワークショップをしてきた理由を、あらためて説明します。実はデザインには、デザインを制作する側のデザイナーと、それを使う側のデザイナーの関係が存在します。完成したデザインを活用するためには、デザイナーの能力が非常に大事で、それにはデザインが完成するまでの物語や取り組み、デザインの見方などを知る必要があります。それらをワークショップの中で経験していただきました。さらにデザインを使う「責任と覚悟」も自覚していただけたと思います。また、もう一つ大事なことは、デザインというとほとんどの方が図案・造形をイメージされると思いますが、本当に重要なことは問題や間違いを発見し、それを解決するソフトこそがデザインだということです。

ロゴマークについて説明します。丸い正円が全部で 9 個あり、左から 2 個(I)、3 個(Y)、4 個(O)と並んでいます。「I」は中山の象徴であり、模様からホタルや木漏れ日イメージできると思います。3 つの円の「Y」は波をあしらっており、双海を表しています。4 つの円で構成している「O」は旧伊予市の象徴で、市花である菜の花をあしらっています。菜の花は一つひとつは小さくても、たくさん咲き誇ることで人の目を惹き付けることから、「そんな伊予市を作っていこう」という思いを込めています。また「IYO」の中には「1」(正円が

1 つの文字)がありません。「2」「3」「4」を並べることで、みんなが「1」を目指していこうという思いも込めています。ロゴマークの基本色はオレンジですが、ほかの色

での展開案も作っており、農産物はグリーン、海産物はブルーのロゴマークを使っていただけます。使い方などのルールはなるべく緩やかにしていますが、このような展開はおそらくほかの自治体ではないと思います。

コピーは一本に絞ろうと思いましたが、皆さんの票がばらけたことで、一本に絞ることに無理があると考えました。行政には福祉や建築、観光などいろいろな分野があるので、様々な場面で臨機応変に使えるようなコピーの方が効果的だと思い、皆さんの賛同をいただいた上で、複数のコピーを使い分けることにしました。



■キャッチコピーの説明（要約） コピーライター 大野 千佳先生

大野氏／最終的にメインに決まった「ますます、いよし。」は、キャッチコピーというよりシンボルワードになると思います。最初に提示した 6 案の中から投票で選ばれたものですが、選んだ理由をお聞きすると「ロゴマークのコンセプトに合っている」という意見をたくさんお聞きし、ワークショップの成果を実感しました。山内先生がおっしゃった「デザインとは問題を発見し、解決するもの」ということを、皆さんがデザイナーとして理解されていると思いました。

ワークショップを通じ、「伊予市のイメージがつかみにくい」という意見がありましたが、それは「旧伊予市、旧中山町、旧双海町としてのイメージが強すぎるため」という印象を受けました。そこでそれぞれの個性を打ち出す方向でキャッチコピーを考えることにしました。また「現在の伊予市」と「これからの伊予市」のどちらを表現するべきかを皆さん



に問いかけたところ、「これからの伊予市」ということになり、「ますます、いよし。」が選ばれたのだと思います。

このコピーを導き出した経緯ですが、まず「伊予」という言葉が旧伊予市、伊予郡、愛媛の旧国名を表すために、伊予市のイメージが発信しにくいと感じました。そこで一層のこと「伊予市」を市外・県外の人に覚えてもらうために、「伊予市」を強調するシンボルワードとして「いよし」をイメージしました。古語の「弥(いよ)し」にかけると「ますます・いよいよ」という意味を持つので「これからの伊予市はこうなっていこう」という決意表明のようなシンボルワードになると思います。「ますます、いよし。」が生まれました。これをシンボルワードとし、旧 3 市町のイメージを表現しているコピーは、観光や物産、食などを表現する際に利用することになりました。

シンボルマークの「IYO」に描かれている山、海、まちを言葉で表現したのが「やま、なみ、咲くまち」のキャッチフレーズです。「咲く」には「花が咲く」のほかに“人々の笑顔が咲くまち”という意味もあります。食に関して作ったのが「美(うま)しまち、いよし。」です。伊予市の歴史を表現するために古語として「美(うま)しまち」を使いました。また市内に「恋人の聖地」が2つあり、“愛媛が愛なら、伊予市は恋で”という発想で作った「山恋、海恋、町恋。」は、観光などに使ってもらえると思います。「いよし、山よし、海よし。」は韻を踏みながら、海の幸、山の幸、まちの農産物を表現しました。

■ワークショップ参加者からの報告(要約)

ワークショップはこの回までに計6回開催され、43の方に参加していただきました。そこで参加者を代表して3人の方

に、ロゴマークやキャッチコピーが決定しての思いや今後の活用法などについて発表していただきました。

隅田 利紀さん(株式会社北風鮮魚)



今回決まったデザインをあらためて見ると、「最初から決まっていたのではないのか」と思うくらい、自然に馴染んでいると思います。シンボルワードの「ますます、いよし。」を見ていると、「これからみんなで一緒にやっとういこう」という雰囲気を感じます。また僕は双海町で働いていますが、旧伊予市出身のため合併意識がありませんでした。今回、ロゴマークに旧3市町の特徴が入ったことで、これを使うときに「3つで1つの伊予市」ということが常に感じられると思います。最初は我々がこの言葉に背中を押されると思いますが、いずれは我々がこの言葉を押していけるよう、「新しいことに挑戦する伊予市」をみんなで作っていきますので、市長もご支援のほどよろしくお願いします。

北岡 加代さん(住民自治されだに)



「今の伊予市から、より良い伊予市」にするべく、いろんな思いを持った参加者の皆さんと一緒に、毎回、自分の意見を発言するとともに、皆さんの意見に耳を傾け、楽しくかつ真剣で有意義な意見交換ができたと思います。この会に参加し続けられたのは「本当に良いものを作りたい」と真剣に取り組めたためで、だからこそ、このように明るく、期待感広がる、みんなの思いが詰まった良いロゴマークになったのだと思います。住民自治されだには今年6月に農林水産省の「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」に選定され、少しずつですが知名度を上げています。今後は伝統料理の商品開発も考えていますので、このロゴマークを使って、更なる知名度アップと住民の活カアップ、若者アップを目指していきたいと思

ます。

山崎 由紀子さん(伊予商工会議所女性会 会長)



全国大会でロゴマーク入りの名刺を渡せば、「これは何ですか?」と聞かれると思いますが、自信を持って説明できるのが良いと思います。また一番を目指すのも良いですが、みんな自分の地元が一番だと思っていますから「2、3、4で良い」というコンセプトも良いと思いますし、「伊予市」の文字に風が通っている感じがオシャレで気に入っています。さらにワークショップのたびに、私たちの意見を反映しながらブラッシュアップされていったのも良かったと思います。このロゴマークなら若い人に使ってもらえると思いますし、唐川びわ葉茶生産研究会の兼岡会長が「ロゴマークにドリームを」とおっしゃったのがすごく印象的でした。いつか当たり前の存在になるように、みんなで育てていきたいです。

■お礼の言葉(要約)

武智市長/毎回 19 時からというお仕事でお疲れの中、ワークショップにご参加いただき、本当にありがとうございます。心より感謝を申し上げます。山内敏功先生と大野千佳先生の説明をお聞きし、「含蓄のある考え方に基づいた意味深いデザイン、レイアウトだな」と思いました。未来づくり戦略室を通じて報告は受けていましたが、私が初めてこのロゴマークを見たときは、革命的とまでは言いませんが斬新で奇抜なロゴマークだと感じました。これが投票で選ばれたと聞いて、「既成概念を破っていくのだな」という個人的な感想もありました。これまで県外・市外で物産を販売する際に、ブースに伊予市を代表するようなインパクトのあるのぼりや旗はありませんでした。しかし今日初めてののぼりのデザインを見て、伊予市のイメージとして素晴らしい絵柄があり、一番上に「IYO」の文字があって、東京などに行けば「このマークは何ですか？」と間違いなく聞かれると思います。また使い続けることでイメージがアップし、素晴らしいロゴマー

クになっていくと思います。これからは伊予市の未来に繋がっていくアイテムとして、子どもたちにも高齢者の方たちにも「これは伊予市のマークだ」と言っていただけるようなものに、皆さんの手でしていただきたいと思います。山内先生、大野先生にご尽力いただきましたが、本当の主役はワークショップに参加していただいた皆さんだと感じました。これから素晴らしい伊予市を皆さん方と作る思いで一杯ですので、どうかよろしくお願いします。



■質疑応答(要約)

最後の質疑応答でも、3人の参加者から感想をいただきました。

笹岡 亜由美さん(松山大学)

今日初めて完成したロゴマークを見ましたが、最初に目に留まったデザインが選ばれて良かったと思います。特に印象的だったのは夕陽のポスターの中にある「山恋、海恋、町恋。」という3つのワードが、「IYO」の3文字の下にきれいに収まっていて、すごく良いと思いました。「Y」の文字がミッキーマウスに間違えられそうだという話もありましたが、逆にそこから会話が生まれることで伊予市をPRしていきたいと思います。



久保 汐里さん(松山大学)

私も今日、初めて完成したロゴマークを見ましたが、「IYO」の文字1つ1つに意味が込められていて、3つで1つの伊予市になるというのは意味的にも素晴らしいと思いました。私自身、旧市町がバラバラだと感じる部分があったので、とても良いロゴマークだと思います。若い人でも使いやすく、名刺などに入れても注目され、会話が弾むと思います。のぼりもロゴマークとは違ったデザインになっており、伊予市をPRするのにふさわしいと思いました。



玉井 彰さん(伊豫國「あじの郷」づくり実行委員会)

最初にデザイン案を見たときに、「このマークだけはやめたい」と思ったのが正直な感想です。次に「みんなが良いというのだから、やむを得ない」と思うようになり、さらに「これでも良いのかな」という段階を経て、「使っていくうちに何とかなりそう」というのが今の率直な感想です。女性は見られることで美しくなると言いますが、このロゴマークも多くの人に見ていただいて、育っていくと思います。山内先生の才能に賭けるという意味でも、これから使わせていただきます。



■感想カード(一部要約)

○完成したロゴマークを見て、この会の一員になれて良かったと思いました。皆で作りに上げてきた満足感で一杯です。でもこの満足感で終わらず、これからが大切になってくると思います。皆の思いを伊予市民みんなに広げられるよう、また全国に発信していけるよう、考えて行動に移していこうと思います。

○今回はロゴマークの完成とのことで楽しみでした。のぼり旗が目立ってすごく良いと思う。物産展のブースで働く感じがする。キャッチフレーズとのバランスも良い感じ。これから使いこなして、身近に取り込んでいきたい。応用が効きそうなのでアイデアとセンスで実用化したい。早速、来年の商工会議所女性会全国大会用の名刺を作成する。

○本日完成したロゴマーク、キャッチコピーを見ました。自分たちで意見を出し合い、ブラッシュアップを重ねて出来上がったものですので、感動もひとしおでした。皆さんの代表として報告もさせていただきました。これからどのように使われ、どのように育ち、どのように知られていくか、非常に楽しみです。

○前回参加できませんでしたが、前々回決まったロゴにシンボルワードが加わって、とてもすっきりとした一つの形になったと思います。これをどのように使い、どのように自分と伊予市の両方が成長していくのか、それだけを考えています。次回のワークショップも楽しみにしています。やっぱり自分が使いたいと思うロゴが一番で、これに決まって内心ホッとしています。

○生まれたばかりのロゴマークとキャッチコピーをこれからどう育てていくのか、どう育っていくのか、自分の子どものように期待と心配で今は一杯です。立派に育てていきたいです。

○実際のロゴ・キャッチコピーの活用例を見たとき、おしゃれな街をイメージできました。「ますます、いよし。」、これからどんどん元気になっていきそうです。これからの実践次第です。これからがスタートです。

○本日のロゴマークの使用例を見て、いろいろな使い方を目にして、仕事場の商品やのぼりにしても、どのように使うのが良いのか、これからの展開に期待します。

○形の無いところから自分たちの意見が詰まったロゴマークが完成し、すごい達成感があった。自分は伊予市に引越してきてまだ1年しか経っていないため、このワークショップに参加して伊予市のことが理解でき、好きになりました。

○ロゴマークおよび展開案が示され、柔軟性のあるマークだったとあらためて感心した。当初選んでいたものだと、こういう柔軟性は無かったと思います。楽しくワークショップに参加でき、良いものが出来上がったと思います。

○温かいイメージとメッセージのたくさん詰まった新しいマーク。ほかの方にもこのメッセージを伝えてください。

○一番最初に選んだマークがここまで進化して！！。文化協会(文化祭など)で今後どのように使っていくのか、持ち帰って考えさせていただけたいと思います。

○回を重ねるごとにロゴマークに親しみが湧いてきて、早くたくさんの人に見せたい気持ちになっています。Facebook(フェイスブック)などにアップするのはまだダメでしょうね(笑)。

○参加者の皆さんが熱心に主体的に取り組まれて完成したことを強く感じました。これからこれを活かす取り組みを期待します。

○ロゴマークを皆の意見を集約して作り上げた。感想発表にもあったように生まれたロゴマークをどう育てるのか、広めていくのかを考えること、ひいては伊予市をどのように広めるのかという課題をあらためて認識させられた。現在、行政の観光、物産の担当として働いているが、上記の内容を踏まえた施策を練る必要がある。

○完成したロゴマークとキャッチコピーを見て、今まで皆さんと話し合ってきたことがまとまっているなと強く感じました。とても良いものになったと思います。これからどのように使っていくのかを考えるのが楽しみです。

○県外へ行くときに、進んでロゴマークを使ったら良いと思います。今後、伊予市を広く知ってもらうために、伊予市の素材を使った商品開発も同時に考えてはどうか。またその商品にシールを使用してはどうかと思いました。

○とても素晴らしいロゴマークとシンボルワードができたと思います。これを生かすも殺すも自分たちがどれだけ使用し、アピールするのかによると思います。愛情を持って使用していきたいと思います。

○キャッチコピー「ますます、いよし。」、大変気に入っています。これからみんなに使っていただけるよう、いろいろな場所で宣伝していきたいです。

○前回、前々回休んでしまい、決定に参加できなかったのですが、この案に決まるまでの意見をぜひ聞きたいと思いました。伊予の間に「四国」「えひめ」と入っていて、どこの地方でどの県なのか分かって良いと思った。

○ロゴマークの今後の使われ方、育て方が問われていると感じます。

○ロゴマークが完成し、シンプルなデザインですが深い意味が込められており、これから先どのように使っていくのか考えていました。名刺にも出身の「伊予」を入れたかったので、使ってみようと思いました。先生と市民が協力して出来上がったマークを大切にしていきたいです。このマークを作ってきた1人として誇りを持って使い、アピールしていきたいです。

○今日、完成したロゴマークを拝見し、柔らかな印象とシンプルでストレートなコピーがとても良いと感じました。バリエーションも豊富なので自由に使用できると感じました。

○温かいイメージのロゴマークで使いやすいそうです。次回からのデザイン展開は重要だと思います。今までの物品などに囚われず、新しく物を取り入れていけば良いかと。また一般市民にも使いやすいものにしてもらいたい。

○パターンが決まってなく、自由度の高いデザインであることから、使用にあたり柔軟性のある“意外な”使用が考えられる。また使用にあたり、今後もフレキシブル(柔軟性のある)対応だと思っている。

○アレンジが自在で自由度が高いのは、とても素晴らしいと思います。ほかでもあまり事例が無いでしょう。今後使用規定も検討されると思いますが、できる限り自由に使えるようにお願いします。TシャツのMAP(地図)はやり直しですね。

○ロゴマーク、キャッチコピーが決定し、今後の使用方法などが楽しみです。

○使って育てようという気持ちです。自由度が高いので、自分の会社のイメージに合致する使い方を考えていきたいと思っています。デザインを活かして光れいよのまち

○10名で各回を分担して参加した都合上、今回初めて参加しました。決定したロゴマークには、前の参加者から資料を見せてもらっていましたが、正直、反対でした。「伊予」という漢字が入ったロゴの方が分かりやすいと思ったからです。しかし本日、山内氏、大野氏の話を聞き、「あー、私は旧伊予市出身なのでそう感じたのか」と納得しました。旧双海町、旧中山町、そして新しい伊予市民から見ても一番「感じ取れる」ロゴがこれなんだと思いました。キャッチフレーズの「ますます、いよし。」も素晴らしいコピーだと思いました

